

類似も立地異なる陸奥と出羽

佐川 正敏氏

高橋学氏から、大鳥井山と陣館遺跡の四面廂付建物と鳥海柵の建物との比較について、報告をいただく。

高橋 学氏

安倍VS清原のイメージがあると思うが、実はそうでもない。これまでの話で、秋田県横手の大

鳥井山を紹介いただき、土塁も見てください。大鳥井山は、千田嘉博先生の言葉を通じて、城郭としての基本構造が、鳥海柵と似ているという。

鳥海柵も大鳥井山も館のまはつきり分かっていて、それは非常に珍しいこと。鳥海柵は鳥海三郎といわれる安倍宗任。

出羽側は清原光頼という名前が出ている。この関係を考えて、宗任のお母さんのきょうだいが光頼。だから、鳥海柵からみると大鳥井山はおじさんの家と云うことができると考え、近い

鳥海柵跡と大鳥井山遺跡、陣館遺跡の建物を比較し解説した高橋学氏

と思ってもらえるのではないかと。

四面廂が、鳥海柵には3棟あるが、同じ時期に出羽の方では大鳥井山と陣館遺跡から見つかっている。陣館遺跡は、後三年合戦の時の最終決戦地・金沢柵の隣にある遺跡。小さな山の上に四面廂の建物があり、大鳥井山も含め見つかっているのはこの二つだけ。形は似ているが、鳥海柵よりも一回り小さい。

鳥海柵は平らなところには建っているが、出羽側は丘の上にほとんど建っている。形は似ているが立地は全然違っているのが相違点。さらに出羽の方は、建物の下の方を階段状に細工している。見栄えをよくしている。遠くから見てもすごいと思わせていることから、宗施設ではないかと想定

している。建物は南向きというのが一般的なイメージだが、原祭上区域の建物が北向きだという箱崎和久氏の話や磨きまて考ると大鳥井山も山の上の狭い平地にほとんど建っているが、その位置は南側に寄っていて北側が空いている。このことは、鳥海柵の建物を考える上で大鳥井山の建物の位置づけについても関係してくるのではないだろうか。

安倍氏、清原氏という関係の中で何となく安倍氏の方が早く、清原氏の建物が新しいようなイメージがあるが、鳥海柵も出羽の二つの建物も、11世紀前半のほぼ同じような時期にあった。このことを頭に入れてもらえば、陸奥と出羽それぞれの建物を比較する時に参考になるのではないかと。

(つづく)

VI パネル討論要旨



金分崎の国指定遺跡 鳥海柵跡

14

考察 全盛期の中心的建物

2017年度 シンポジウムより

コーディネーター

佐川正敏氏

(東北学院大学教授)

パネリスト

千田嘉博氏

(奈良大学教授)

本堂寿一氏

(国史跡鳥海柵跡整備委員会委員長)

大平 聡氏

(宮城学院女子大学教授)

相原康二氏

(えさし郷土文化館長)

高橋 学氏

(秋田県埋蔵文化財センター副所長)

箱崎和久氏

(奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長)

登壇者